

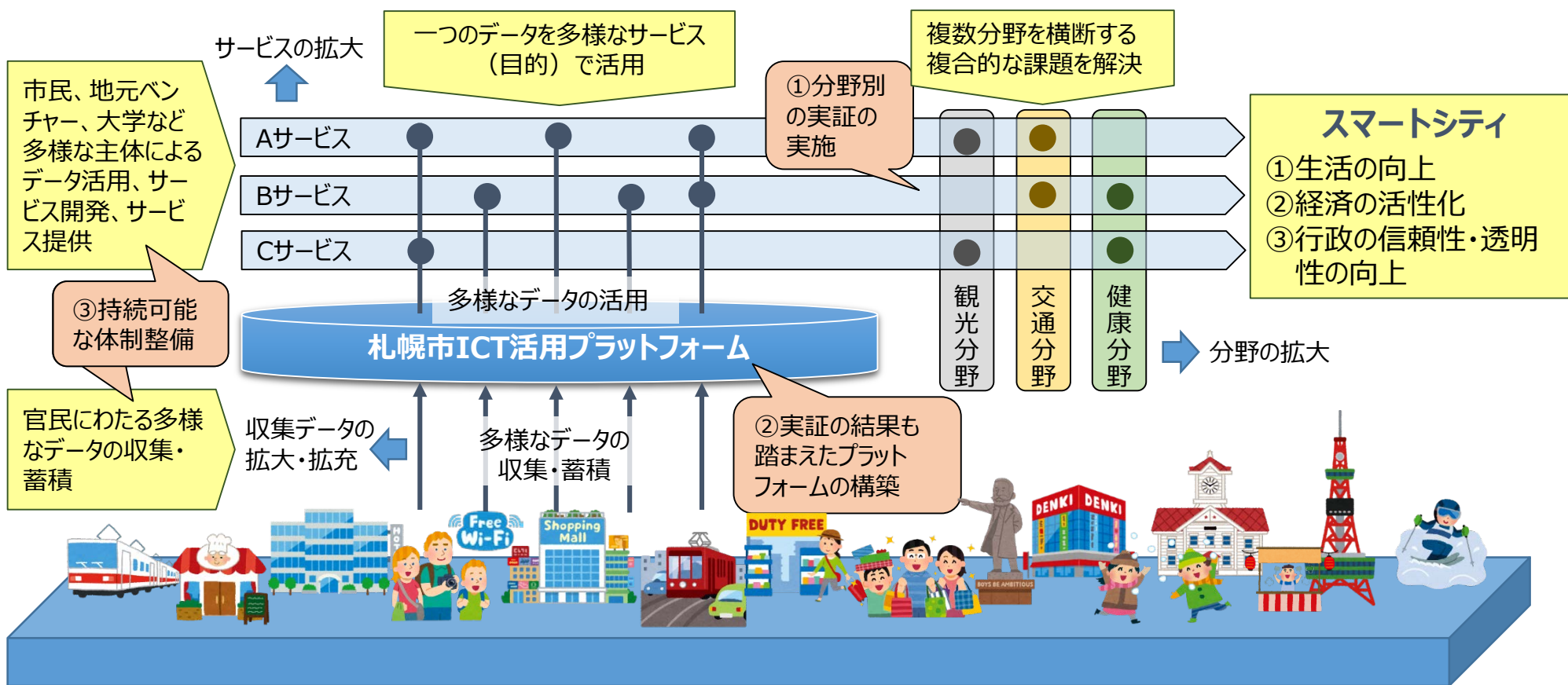
平成29年度データ利活用型スマートシティ推進事業  
「札幌市データ活用プラットフォーム構築事業」  
の取組について

平成30年5月28日

# 1. 事業概要

目的：官民の様々なオープンデータ、ビッグデータを活用するプラットフォームを構築  
サービス提供やオープンデータ化において多様な主体が参画可能な環境を整備

内容：プラットフォーム構築とあわせて3分野の課題を解決する5つの実証事業を実施



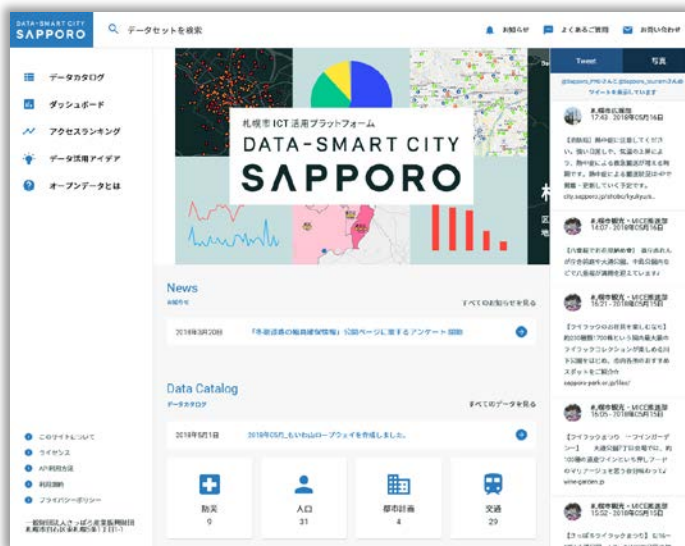
データ登録、蓄積・管理、提供といったデータ関連機能、データ利活用の普及・促進を図るためのダッシュボード機能、アカウント管理機能を持ったプラットフォームを構築

### Webサイト概要

名称：札幌市ICT活用プラットフォーム DATA-SMART CITY SAPPORO

URL：https://data.pf-sapporo.jp/

### トップ画面



### データカタログ画面



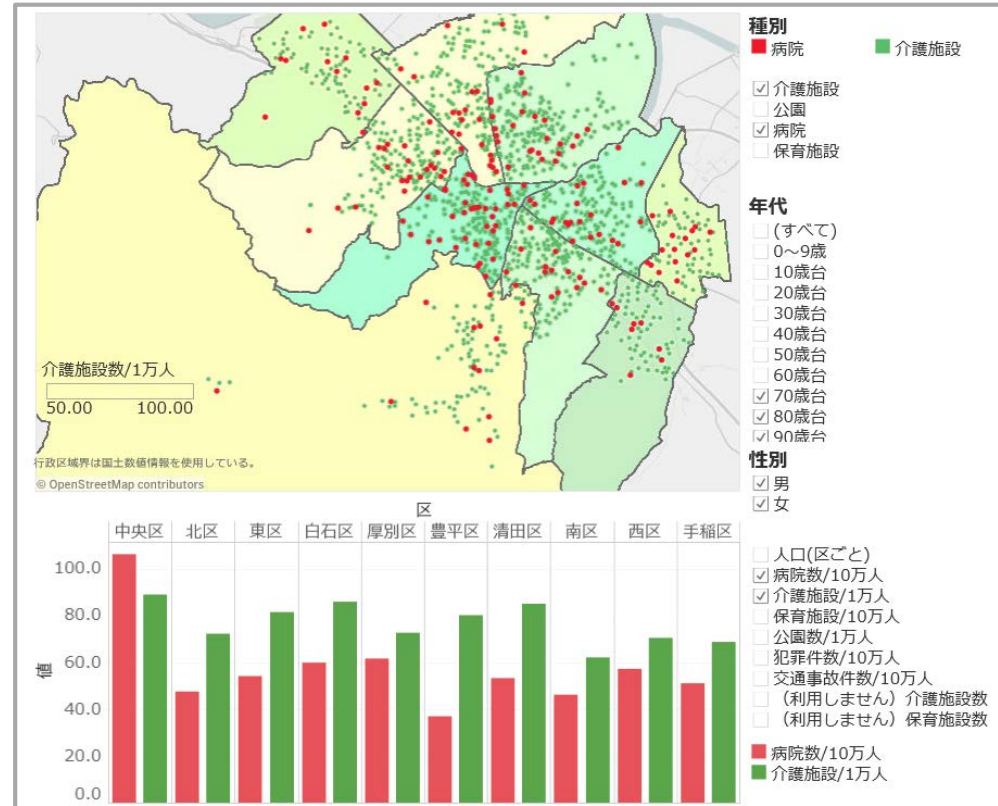
### データセット数・サイト訪問数

項目	目標値 (既存札幌市オープンデータカタログサイトからの伸展)	実績 (H30.2月末)	実績 (H30.4月末)
登録されるデータセット数	87→130 (1.5倍)	137 (1.57倍)	142 (1.63倍)
プラットフォーム月平均訪問数 (セッション数)	257→600 (2.3倍)	9,981 (38.8倍)	5,406 (21.0倍)

## 2.プラットフォーム構築 ダッシュボード例① 札幌の暮らしMap

区別の人口統計データを使用し、区ごとの人口グラフと年代・男女別のヒートマップを表示  
人口統計データと生活関連施設の位置データを使用し、人口と施設配置のバランスをマップ上で表示

※ダッシュボード：各種データを活用・分析し、地図やグラフで分かりやすく表示したもの



1日の中で、地下鉄の乗客数がどのように推移しているか、地下鉄車両の動きもあわせて表示して、地下鉄と人々の流れを可視化



### 3.実証事業 ①【観光】人流×購買データを活用したインバウンド向け消費促進/周遊促進サービス

#### テーマ 民間企業が有効にデータを活用できる仕組みの構築

##### 課題

- ・インバウンドの滞在中の移動、購買行動等の把握
- ・市内中心部に偏っている観光客の郊外施設等への誘客案内

##### 取得するデータ

- ・人流データ：携帯基地局データ、GPS、ビーコンの位置情報
- ・購買データ：商業施設の購買データ

##### 実証ポイント

- ・人流・購買データの分析 ⇒ インバウンドの動態把握  
分析に基づいたマーケティングによる販路拡大、購買データ比較による自社販促（品揃え等）の検討、インバウンドの呼び込みのためのプロモーション検討
- ・観光アプリ活用 ⇒ 魅力ある郊外施設への誘導  
おすすめスポットに誘客するための施設情報、交通手段情報等の提供

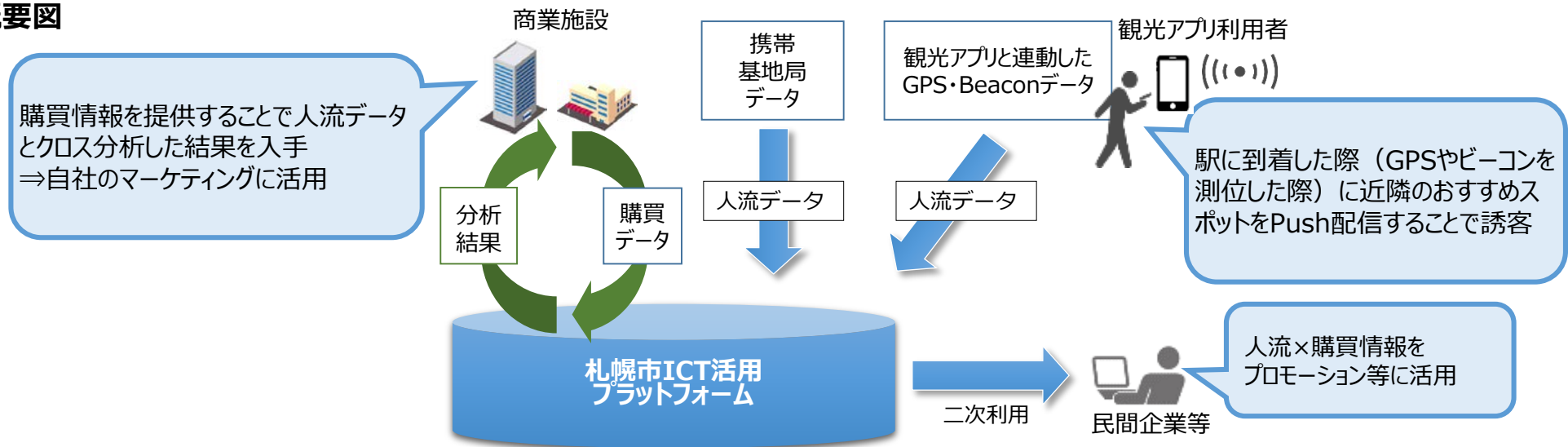
##### 実施状況

- ・H30.2.15～ 商業施設等へのデータ分析結果提供開始
- ・H30.4月末現在:商業施設4団体、周遊施設7団体8か所、宿泊施設6団体7か所 が参加

##### 事業のKPI (H30.2月末時点)

- ・購買データを収集する店舗 目標:5店舗以上 結果:5団体18店舗
- ・位置情報を収集するアプリ 目標:2アプリ以上 結果:2アプリ

#### 概要図



#### テーマ 交通情報の集約と情報発信環境の整備

##### 課題

- ・ 荒天等の交通混乱時における、運行状況の一元的な把握
- ・ 適切な交通情報を提供することによる観光客満足度の向上

##### 取得するデータ

- ・ 各交通機関の運行・遅延情報

##### 実証ポイント

- ・ 市内各交通機関の運行情報を集約。荒天・災害・事故発生時における遅延、運休情報を多言語に変換し提供
- ・ 観光案内所やチ・カ・ホ（札幌駅前通地下歩行空間）等のデジタルサイネージやWebページなどで一元的に掲示
- ・ 集積した情報はプラットフォームに蓄積し、二次利用可能な形式で提供

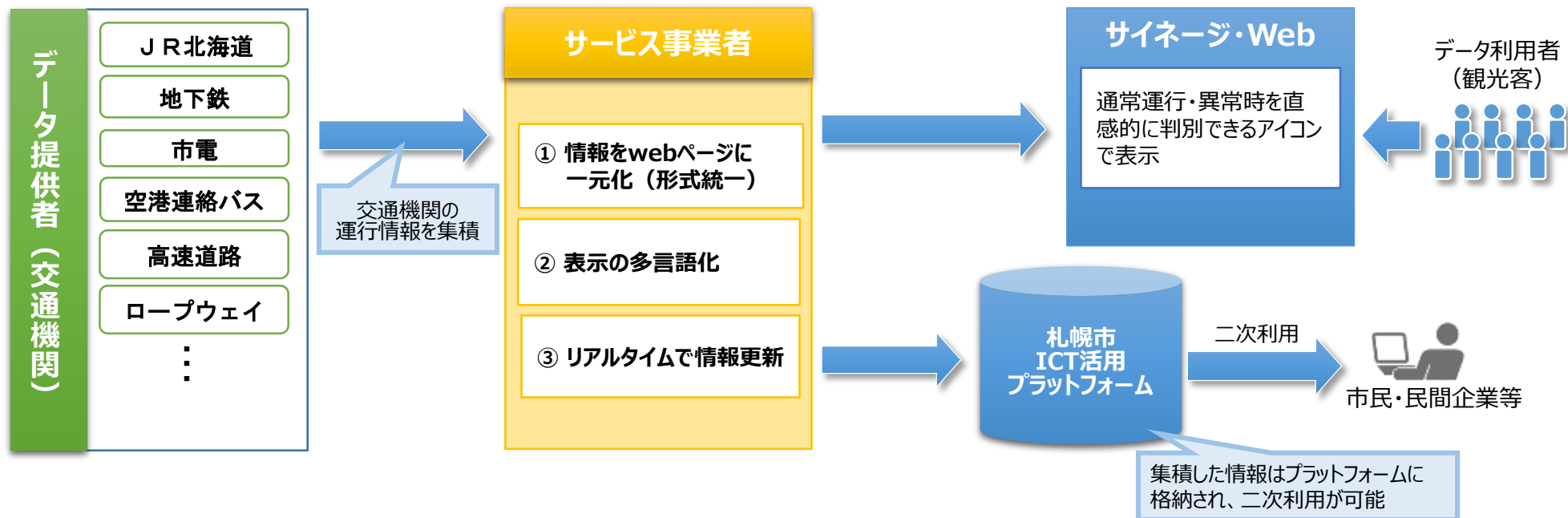
##### 実施状況

- ・ H30.1.29～ WEBサイト・サイネージによる情報提供開始  
<https://www.traffic-info-sapporo.jp/>

##### 事業のKPI（H30.2月末時点）

- ・ 参加する交通事業者 目標:4事業者以上 結果:6事業者
- ・ 提供サービスの発信媒体 目標:2媒体以上 結果:3媒体

#### 概要図



#### テーマ ビッグデータを活用した効果的・効率的な除排雪のあり方検討

##### 課題

- 路肩の雪山や路面のわだち等による渋滞発生、交通機関運行状況の乱れ

##### 取得するデータ

- ゴミ収集車等に搭載したセンサーから路面情報（画像データ、位置データ、加速度データ、温度）を新たに収集
- ※ 別途取得する路肩積雪データ、GPSデータ、除排雪実施記録データ、気象データ等も活用

##### 実証ポイント

- 収集したデータを分析し、渋滞が発生しやすい区間の特定を行い、スポット的な除排雪を実施  
⇒交通状況の変化などについて効果検証を実施

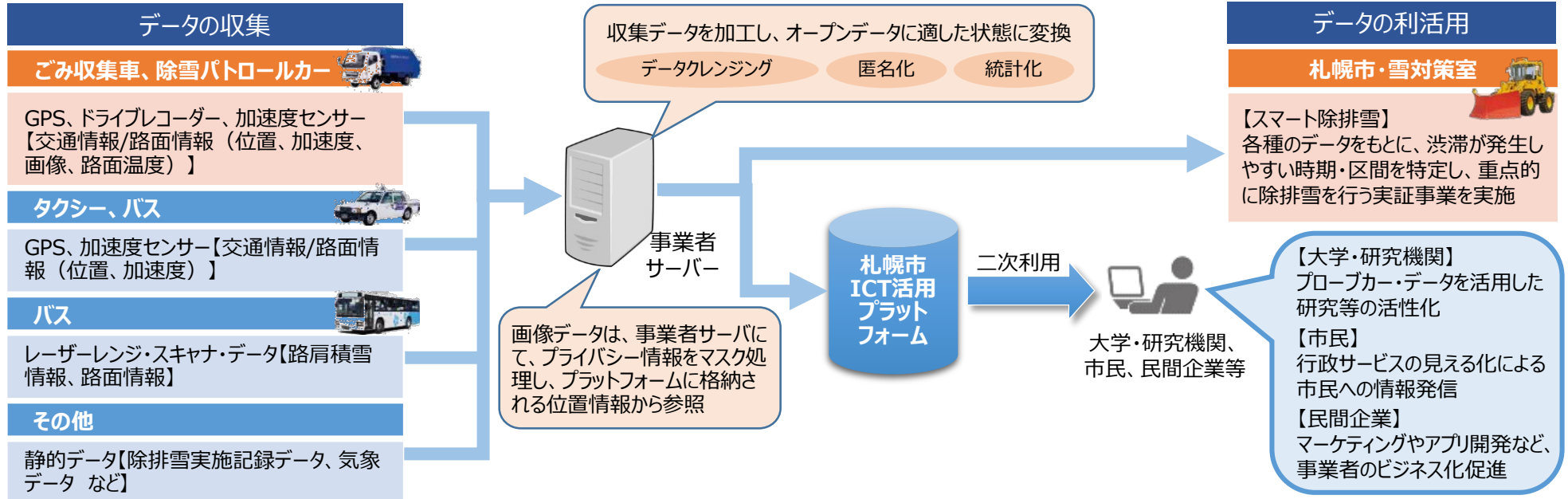
##### 実施状況

- H29.12.17～H30.2月末 ごみ収集車によるデータ取得

##### 事業のKPI（H30.2月末時点）

- データ取得対象道路の総延長  
目標:前年度比3倍(9km→27km) 結果:90.7km(10倍)

#### 概要図





#### テーマ 市民との協働による滑り止め材散布の促進

##### 課題

- ・ 冬季の路面凍結による歩行者転倒事故の防止
- ・ 凍結防止の砂箱（滑り止め材）の認知・利用向上

##### 取得するデータ

- ・ 市内の砂箱の位置情報
- ・ 歩行者転倒者情報
- ・ 路面観察情報（市民等からアップロードされた情報を蓄積）
- ・ 砂箱在庫情報

##### 実証ポイント

- ・ 市民からの情報発信による歩道路面状況の収集（協働の取組促進）
- ・ 利用者の現在位置の状況を分析することによる、転倒リスク判定結果の表示による注意喚起
- ・ 近隣の砂箱位置の表示による、市民による滑り止め材散布の促進
- ・ 砂箱在庫情報を、定期的に砂箱補充者へ提供  
⇒上記より、転倒者数の削減、転倒による緊急搬送者数の削減、効率的な砂袋補充作業を目指す

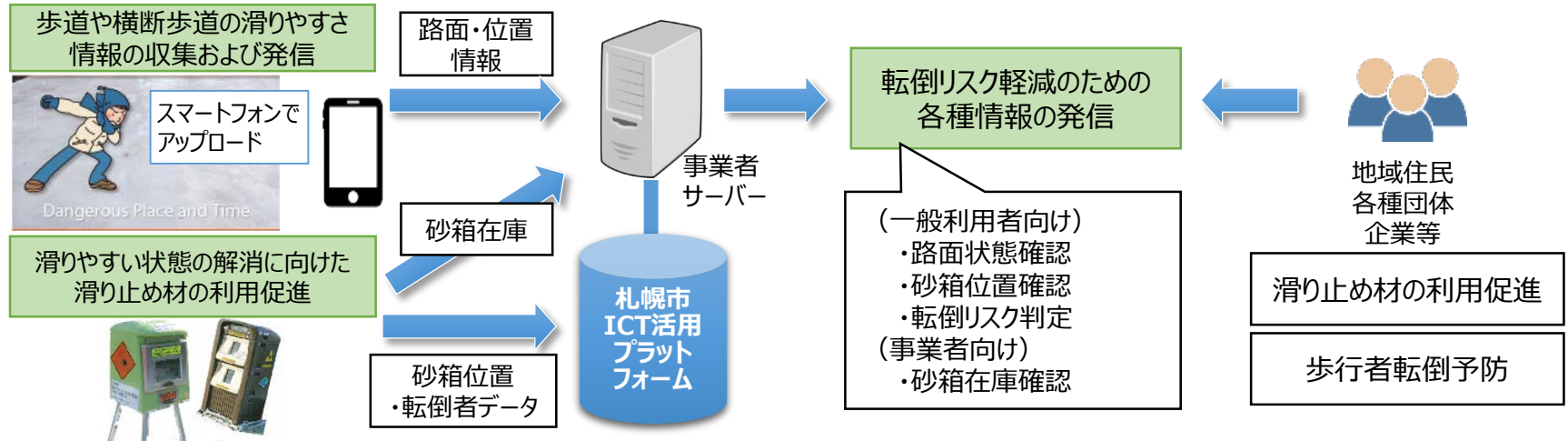
##### 実施状況

- ・ H29.12.1～H30.3.30 WEBサイト運用  
<http://sp.tsurutsuru.jp/>

##### 事業のKPI（H30.2月末時点）

- ・ 転倒危険箇所提供 目標:20箇所以上  
結果:月平均21.75箇所 延べ87箇所
- ・ 路面情報収集協力者数 目標:100名以上 結果:163名

##### 概要図



#### テーマ 健康活動状況や健康状態の可視化による健康意識向上

##### 課題

- ・ 若年齢層の健康意識向上
- ・ 少子高齢化による将来的な医療費増加の抑制
- ・ 市民の健康促進による生産年齢人口の確保

##### 取得するデータ

- ・ 属性情報（性別、身長、体重など）
- ・ 歩行に関する活動量情報
- ・ 健康行動の意識調査（アンケート）

##### 実証ポイント

- ・ 健康イベントと連携し、会員の登録、スマホアプリを利用したデータ収集の実施  
⇒ 健康活動状況や健康状態の可視化による健康意識向上

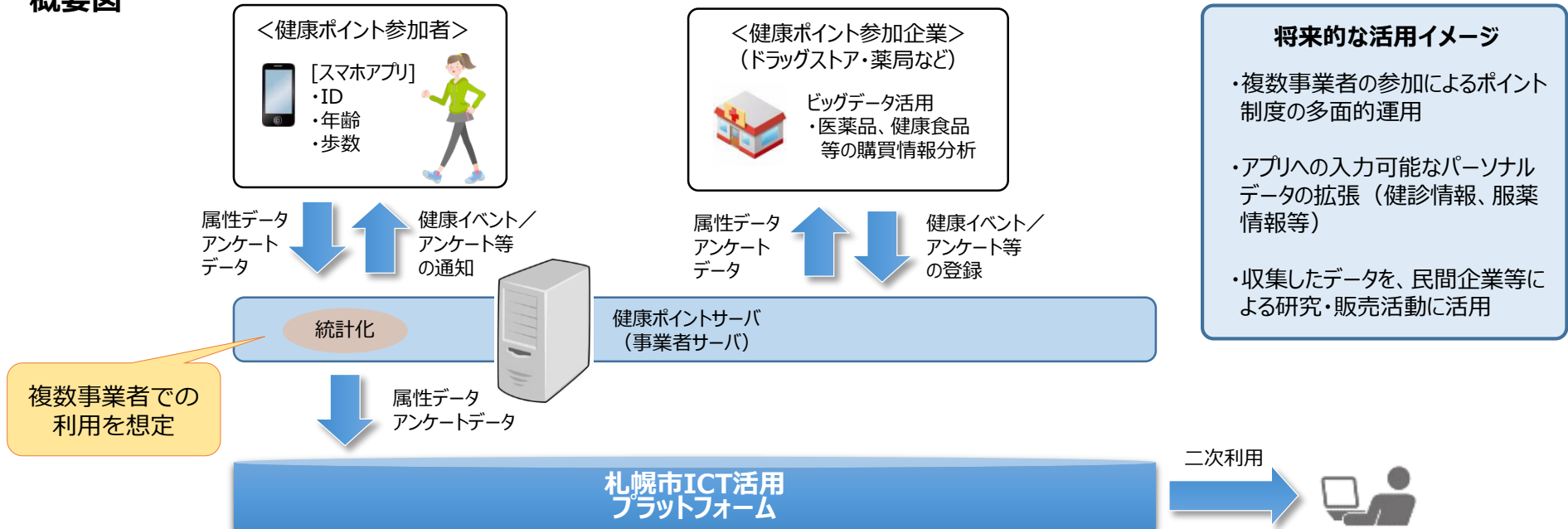
##### 実施状況

- ・ H29.11.23・24 健康促進イベント実施、  
～H30.2月末 アプリ登録、活動量データなど収集

##### 事業のKPI（H30.2月末時点）

- ・ 活動量や健康意識に関するデータを提供する個人  
目標:300名以上 結果:289名

#### 概要図



### 1. プラットフォーム利活用の促進

- ・プラットフォームの機能拡充、データの充実化
- ・民間事業者等のニーズ把握
- ・データ提供者とデータ利活用者のマッチング

データ活用コーディネータの配置

データ流通の活性化と新たな価値創造（スマートシティの推進）

### 2. 自走化・持続化に向けたプラットフォーム運営体制の検討と構築

- ・プラットフォーム運営組織に必要な機能の整理
- ・機能に対応した組織体制づくり
- ・収益モデルの検討と実践

データ利活用促進検討委員会の開催

持続可能なプラットフォーム運営基盤の実現